

CAMPUS HEALTH

2023.3

60 (1)

第60回全国大学保健管理研究集会
(北里大学) 報告書



Japan University Health Association

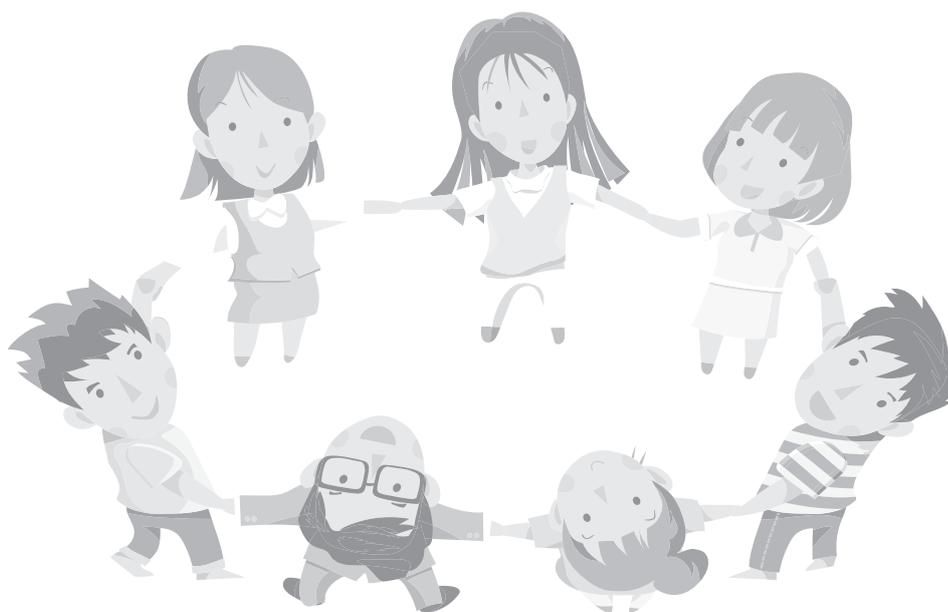
第60回 全国大学保健管理研究集会

The 60th Annual Meeting of Japan University Health Association

教職員のすべてがチームで取り組む大学保健

～この大切な概念をいかに次世代に伝えるか～

プログラム・抄録集



会期：2022年10月19日（水）・20日（木）

会場：神奈川県民ホール・横浜産貿ホール マリネリア

主催：公益社団法人全国大学保健管理協会・北里大学

後援：文部科学省

目 次

第60回全国大学保健管理研究集会 ごあいさつ

「ご挨拶、そして見どころ・聴きどころ」 5

第60回全国大学保健管理研究集会 運営代表 島袋 香子

第60回全国大学保健管理研究集会 大会長 守屋 達美

I. プログラム

日程表 9

II. 開会式 13

III. 講演プログラム 17

IV. 学長講演

教学運営の立場から大学保健に望むことーコロナ禍における体験からー 島袋 香子 23

V. 特別講演

1 大学に求められる障害のある学生の権利保障ー障害者差別解消法の改正をふまえて 村田 淳 27

2 これからの大学での感染症対策 和田 耕治 28

3 健康関連スティグマ

～私たちは社会の否定的ステレオタイプにどう向き合うべきか?～ 杉本 正毅 29

VI. 教育講演

1 大学生の睡眠を考える 岡本 百合 33

2 大学生の肥満とやせに対する食育 日田安寿美 34

3 健診データを用いた臨床研究の実際 二宮 利治 35

4 論文の書き方・研究テーマの見つけ方 吉川 弘明 36

VII. シンポジウム

1 必ず来るであろう大規模災害に大学保健施設としてどのような準備をしておくべきか

① 大学の大規模災害への備え：東日本大震災と福島第一原子力発電所事故の経験から 谷川 攻一 39

② 自助・共助力を強化して若い力を発揮する環境作りを目指す 安倍 藤子 40

③ カウンセラーからみた震災後の時間経過に伴う学生の様相の変化と

必要な支援について 黒山 竜太 41

④ あなたは大規模災害への備えができていますか？

～事業継続計画で見過ごされている重要なこと～ 高木 朗義 42

2 ヘルシーキャンパスを達成するための方策ー多職種連携の大切さ

① ダイバーシティ推進からヘルシーキャンパスへ 河野 美江 43

② ヘルシーキャンパスを達成するための方策について

看護師・保健師は保健管理のコーディネーター 田中 ゆり 44

③ 連携をするために心がけていることー事務職員の立場からー

可児 由香 45

④	カウンセラーが教職員との連携・連絡の際に考えること	早坂 浩志	46
⑤	学生にとってのヘルシーキャンパスとは	村上奈々子、今井 菜摘	47
⑥	学生にとってのヘルシーキャンパスとは	今井 菜摘、村上奈々子	48
VIII. イブニングセミナー			
	メンタルヘルスに関連する問題を持つ困難例への対応－分担・連携・集約－	松山 真	51
IX. ランチョンセミナー			
①	“おとなのワクチン外来”から大学生と関係者に伝えたいこと	田中 敏博	56
		主催：サノフィ株式会社	
②	携帯電話の電磁波って危ないの？－WHOの見解を紹介します－	大久保千代次	57
		主催：一般財団法人電気安全環境研究所	
X. 一般研究発表			
	優秀演題発表		61
	一般研究発表		63
XI. 賛助会員 323			
XII. 閉会式 327			
XIII. 名簿			
	第60回全国大学保健管理研究集会 索引		331
	第60回全国大学保健管理研究集会 運営委員会委員・幹事名簿		337

ご挨拶、そして見どころ・聴きどころ

このたび、2022年10月19日(水)、10月20日(木)の2日間にわたり、神奈川県民ホールにて第60回全国大学保健管理研究集会を開催することになりました。

この全国大学保健管理研究集会は、全国の国・公・私立大学の保健管理施設を担当する教職員が年に一回、一堂に会して、大学における保健管理に関する調査・研究の成果を発表し、また、相互の連携・協力のもとに、日常業務に役立つような研修・啓発を行う場です。話題はフィジカルヘルス、メンタルヘルスから障害者支援、学生支援、学生・教職員の安全衛生管理まで多岐にわたります。

今回は、(現時点では)3年ぶりの対面開催を予定しています。私たちは、この2年以上、遠隔の会議、遠隔の学会がほとんどの生活を強いられてきましたが、やはりFace to faceのお話し合いは非常に有意義なものであると再認識しており、なんとかこのまま開催できれば良いと考えています。

研究集会のテーマを「教職員のすべてがチームで取り組む大学保健～この大切な概念をいかに次世代に伝えるか～」としました。大学保健管理は、保健管理スタッフのみが行うものではなく、大学に籍を置く教職員のすべてが尽力するものだとして認識しています。したがって、この分野を同世代そして次世代へ広く継承・啓発・教育することの大切さを参加者の皆様と共有できるならば大変ありがたく思います。

特別講演を3人の方にお願ひしました。1) 障害者差別解消法が改定され、国立・私立を問わず合理的配慮の提供が義務化されたことは、全ての大学スタッフが認識し、どのように実践していくかというお話です。2) 新型コロナウイルス感染症が本邦でも流行り出した当初は、誰もが右往左往しました。これからも様々な感染症が生じる可能性があります。どんな状況でも慌てないためには日頃からのような準備をしておくべきかが重要です。3) 実は、現代社会には、スティグマがたくさんあります。「スティグマのない社会を目指す」にはどうしたら良いかというお話です。

教育・研鑽はすべてのスタッフにとって重要と考え、2日目の午前中に教育講演を4人の先生方にお願ひしました。1) 大学生には睡眠の量・質に様々な問題があろうと予想しますが、その実態と対策についてお話しいただきます。2) 昨今、肥満大学生、食生活の乱れ(朝食欠食など)が少なからず見られます。大学生に対しても食育は必要ではないかと考え、大学保健スタッフがどのように食育を進めるのが良いかというお話をお願ひしました。3) 4) 一方、大学保健スタッフは現場の業務に忙殺され、有効な臨床研究に結びつける余裕がないことも確かです。そこで、健康診断データをどのように臨床研究に生かすか、研究テーマを日々の業務の中からどう見つけるか、論文をどうやって書くか、などのお話をお願ひしました。

昨今大学生の悩みや置かれている状況の多様化が著しく、大学だけでは対応しきれない困難なケース(ひきこもり、ヤングケアラーなど)も少なからず見られます。1日目のイブニングセミナーでは、福祉関係のお立場・見地から現場・解決策などをお話しいただきます。



シンポジウムは2日目の午前午後に各1つ設定しました。午前中は「必ず来るであろう大規模災害に大学保健施設としてどのような準備をしておくべきか」、午後には「ヘルシーキャンパスを達成するための方策—多職種連携の大切さ」というテーマで、様々な立場の方からお話をいただきます。シンポジウム2つの話題は異なりますが、いずれも「私たちは今後どうしていくのが良いか」ということを皆で討議をしたいと考えます。

一般演題には、多岐にわたる分野の興味深い研究発表が多数あります。現場の発表をエントリーされたカテゴリーを参考にして少しでも関連のあるセクションにまとめたつもりです。座長も様々な職種の方々をお願いをいたしましたので、有意義なディスカッションをお願いします。

一つの研究集会では、すべての分野を網羅することはできませんが、少しでも今後の大学保健の発展のために実りあるディスカッションができればありがたいと思います。多数の方々のご参加をお待ちいたします。

例年文部科学省の後援のもとで開催されている本研究集会も、この度第60回を迎えます。五十年以上にわたって脈々と受け継がれてきた本会を成功させるべく尽力して参る所存ですので、ご協力、ご支援の程、何卒よろしくお願い申し上げます。末筆ながらみなさまの益々のご発展を心よりお祈り申し上げます。



第60回全国大学保健管理研究集会 運営代表

島袋 香子

(学校法人北里研究所 北里大学 学長)



第60回全国大学保健管理研究集会 大会長

守屋 達美

(北里大学健康管理センター)